

新年のご挨拶



二松學舎大学
父母会報

平成5年5月10日創刊
平成30年1月20日発行
(第99号)

二松學舎大学父母会

(本部・事務局)

東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広堂吉先生書



父母会長

南條 麻里



新年あけましておめでとうございます。
させていただきます。

父母会会員の

皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお喜びを申し上げます。今年も皆様にとりまして、良い年でありますようお願い申し上げます。

昨年は皆様のお力添えをいただきまして、父母会活動を順調に進めることができました。

地区別父母懇談会も、北は札幌市から南は那覇市まで九会場にて、滞りなく開催させていただきました。遠方の会場にご参加いただいた方からも、大学の現況や学生生活の様子を聞き、大学を身近に感じる事ができたというご感想をいただき、私共役員も大変嬉しく思っております。

また創縁祭においては、父母会無料休憩所に例年よりも多い三〇〇余名がお立ち寄りいただきました。予

想以上のお客様に、用意していたお茶菓子「松風」(二松學舎オリジナル)が不足するほどでした。役員もお客様とお話させていただき、大学の様子や父母会活動の様子もお知りいただけたのではないのでしょうか？三月には例年通り、卒業パーティーを開催いたします。ゼミの仲間や先生方との歓談の時間を楽しんでほしいと願っています。

世の中が大きく変化をし、世界中から驚くようなニュースが飛び込んできます。大学ホームページには災害時の事だけではなく、Jアラートの文字が追加され、学生達にとって不安や苛立ちを感じる事が多いご時世かもしれません。

ですが、長い激動の時代を乗り越えて百四〇周年を迎えた二松學舎大学は、周年記念の言葉「いままでの百四〇年。これからの百四〇年。」に表されるように、中長期的なビジョンを描きながら学生達を育ててくれているように感じます。時代に合わせた変化もしながらブレない姿勢、長期的な視野、脈々と受け継がれる建学の精神。学生達もしっかりと受け継いで欲しいと思います。

私たち父母会役員はこれからも、大学と父母のパイプ役として、また学生の為、大学の為となる様に事業を行ってまいります。引き続き父母会活動へのご支援とご協力をお願いいたします。

父母会の皆様には、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、二松學舎は昨年創立百四〇周年を迎えました。本年は改めて、これからの百四〇年の第一歩を踏み出す年であります。

本学は、これまで「N' 2020 Plan」の着実な実行により、都市文化デザイン学科や国際経営学科等新学科の開設・新設、定員増、教育の質的改善、奨学金制度の充実、グローバル化対応、キャリア教育、学生支援、キャンパス整備等多くの成果を挙げてまいりました。

しかしながら、私学を取り巻く環境は更に急激に変化し、十八歳人口が二〇四〇年にかけて四十万人以上急速に減少、また時代の大きなうねりとして、いわゆる第四次産業革命、AI・IoT・ビッグデータ等機能の進展により、十〜十五年以内には現存する職業の五割以上が消失するなど我が国の働き方や経済・社会状況が一変していくとの予想もありません。

こうした状況の激変の中で、本学の使命を永続的に果たし続けていくため、二松學舎構成員の新たな目標である、新長期ビジョン「N' 2030 Plan」を定め、百四〇周年記念式典の席で公表しました。

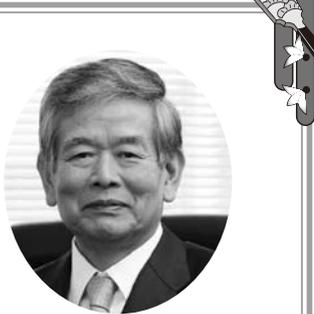
この大きな狙いを以下三点に絞って説明します。

第一点は、本学の建学の精神に基づいた二〇三〇年時代を生き抜くために必要な能力と人間性を保持した学生を育成していく、「二〇三〇年型教育体

制」の構築です。先に述べたように、今後、AI・IoT、ロボットなどの果たす機能が現在の定型業務や調査・分析業務を代替、現存の五割の仕事が消滅していく中、AIで代替できない仕事に必要な能力である社会的・創造的知性などの涵養を通じて、「想定外」や「板挟み」と向き合い、乗り越えられる人材、AIで解けない問題・課題・難題と向き合える人材、創造的・協働的活動を創発し、やり遂げる人材を育成していく必要があります。

間性」の三位一体の総合能力を育むための新しいカリキュラムを策定し、これを実施していく「二〇三〇年型教育体制」の構築を目指していくこととしました。

第二点は、大学をさらに優れた学校にしていく総括目標を設けたことです。すなわち、学校運営を、経営資源、入学、在学中、就職、卒業後の五つの局面に分けて、学校運営上の戦略目標 (KPI = Key performance indicator) を三十余り設定し、ダッシュボードに一覧にして収め、進捗状況を管理しつつ、総括目標を達成していく形で、大学のブランドを引き上げていきます。



年頭所感

これからの百四〇年を形創る 「N' 2030 Plan」

理事長 水戸英則

第三点は、新時代におけるカリキュラム改革です。アドミッション、カリキュラム、ディプロマ各ポリシーに基づく体系的なカリキュラムを設計、これの実施を通じて、各学生が十分な学習時間の確保による能動的・協働的な学修を通じて、新時代において自立して生きる力を身に付ける教育体制を構築していく必要があります。すなわち、入学志望時には本学で学びたいと

思う学生が本学を選択・応募でき、本格的な学修をスムーズに開始できるような基礎ゼミや教養教育等の充実を図ることが必要です。次に、在学中は、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら能動的・主体的な学修習慣が身につく、成長できるようなアクティブラーニング環境を整え、教える側では、高度な研究に裏付けられた体系的な教育と確かな教育力のある教員の質の高い教育を施すことができ、その結果密度の濃い学修時間が増えることが期待されます。最後に、卒業時には、

以上、この新長期ビジョン「N' 2030 Plan」は、云々までもなく、二松學舎のこれからの百四〇年を築いていく重要な第一歩を踏み出すプランであり、全学一丸となり実現をしていくことが、本学生き残りの要諦ともなりま

す。そして、その実現においては、正に教職員の皆様の確かで力強い推進力が必要とされ、従来にもまして、ご努力を願いたいと思っております。

父母会の皆様方には、本学の大きな挑戦について、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎え、保護者の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本学は昨年十月十日に、創立百四〇周年式典を盛大に催すことができました。保護者の皆さまには、日頃より本学の教育・研究にご理解を頂き、また多大なるご協力を賜り、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

百四〇周年式典の中で、水戸理事長より本学の新長期ビジョン「N' 2030 Plan」が発表されました。すでに創立百三十五周年を機に「N' 2020 Plan」が策定され、二〇二〇年に達成すべき共通の目標に向けて、二松學舎全体でその実現に日々邁進してまいりました。

「N' 2020 Plan」においてすでに一定の成果が得られたこと、十八歳人口の減少等大学を取り巻く環境がさらに厳しくなっていることや、「第四次産業革命」と呼ばれる社会の急激な変化に直面していることなどを踏まえ、新たに二〇三〇年を見据えた長期ビジョンの策定に至りました。

「N' 2030 Plan」において、大学の教育改革の目標が設定されています

が、ここでは主なものを以下にご紹介いたします。

・少人数教育を基本とし、いくつかの分野で、世界的にも高いレベルの教育研究活動を行っていきま

す。
・高いレベルの教育研究活動を支える教授陣を揃え、施設面でも十分なサポートを行います。
・教育体制の充実を通じて、卒業時までに学力を一段と向上させま



年頭所感

「N' 2030 Plan」を

学修成果の可視化

二松學舎大学 学長 菅原淳子

さて、教育改革に関連して本学が今年積極的に取り組もうとしている課題は、学修成果の可視化の問題です。これを述べる前に、現在、政府が進めている「高大接続改革」について簡単に説明いたします。「高大接続改革」とは、高校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革です。高校教育では、社会で自立的に活動するために学力の三要素を育成することが謳われています。三要素

学自らが教育の質を保証していかなくてはなりません。今日の大学は、大学教育が四年間で学生に何を与えるのか、が問われているのです。大学教育は個々の授業科目の集合ではなく、大学は教育課程全体を通して学生の知識や技能を形成し、成長させていく使命を課されています。そこで必要となるのが、学生の学修成果をどのように測定し、評価し、それを教育力向上のための授業改善等

につなげていくのかということでもあるのです。

各大学で、学修成果の可視化に向けてさまざまな取り組みが始まっています。本学でも、従来からの試験やレポートなど直接的な評価、学生による授業アンケートなど間接的な評価だけでは十分ではなく、新たな指標を検討していかなくてはなりません。また学生自らが学修成果を意識し、自己の成長を促していく努力も必要とされています。本学の学生が幅広い教養、語学やITスキル、専門的な知識に加えて様々な能力や豊かな人間性を身につけて社会に出ていけるよう、本年も力を尽くしてまいります。

す。

・グローバル化・IT化等に対応したカリキュラムを持ち、応用力・対応力を保持するための人材育成を行います。

・キャリア教育を充実させ、卒業生が様々な社会部門で活躍できるようにします。

以上の目標を達成すべく、今後も教育改革を加速させてまいります。

素とは①知識・技能の確実な習得
②①を基礎にした思考力・判断力・表現力③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度をいいます。大学入学者選抜ではこの三要素を多角的に評価することが、また大学教育では高校までに培った力をさらに向上・発展させ社会に送り出すことが求められています。

この「高大接続改革」の中で、大学は教育力を強化し、そのために大

新年明けましておめでとうございます。大学生のお子さんもそろって新年を迎えられたでしょうか。

親として、大学生になったお子さんのことをこれまで大切に育て、成長や幸せを願ってこられたことと思います。こうして学生さんのご家族に何かをお伝えする機会があるたびに言いたくなるのは、学生さんの方も、家族のことをとても大切に思い、家族の幸せや家族との満足な結びつきを願っているということ

です。相談の中で話されるのは、家族がとても大切な存在だとか、支えになっている、というストレートでポジティブな表現ばかりではありません。親子関係のうまくいかなさや、親への不満、親のやり方の理不尽さの訴え、親への心配であったりします。他にも、親に心配されすぎて窮屈、期待に応えられない、お金がかかってばかりで申し訳ない、関心がなさそうでさみしい、かけてほしい言葉があるなど、多様な表現があります。学生さんは大事

に悩み語ります。

お子さんがこんなことを考えているとき、ご家族の方もお子さんとの関係にどこか心もとなさを感じているのかもしれない。どのような会話が、つながりを実感できる関係をつくってくれるのでしょうか。少なくともその会話は、責めたり、決めつけたり、一方だけの正しさを主張したり、指示する側とされる側に分かれたりするような会話ではないのでしょうか。試しに、お子さんと話す機会に、お子さんからその話を聞いたことが「ご自身にとって」どんな意味があるのか、何を受け取ったのかを伝え返してみてください。

学 生 相 談 室
だ よ り 99
カウンセラー **奥野 光**

自分にとつてよいことだった、という一言でもよいのです。相手に何をどう返すのかということが、次に相手が何をどう話すのかを形作っていることが分かると思えます。同時に、相手とどのような関係を結びたいのかを語らずして伝えることにも気付かれるでしょう。

◆◆◆ 地区別父母懇談会アンケートについて ◆◆◆

平成二十九年六月十日(土)～八月五日(土)に行われた地区別父母懇談会でお寄せいただいたアンケートの中からご意見を頂いたものにつきまして、父母会事務局からご回答申し上げます。

東京会場のアンケートから

Q. 在学生数の少ない地区での懇談会開催、出席される方は、いらつしやるのでしょうか？

A. 遠方の父母の方々にも、在学中に一度は、懇談会に参加して頂きたいとの考えから、父母のいる北海道・東北・北陸・甲信越・中部・関西・中国・四国・九州・沖縄の各道府県を四年間に一度は開催するようにしています。ご理解いただければと思います。

Q. 何か豪華に飾り立てたり、一瞬でなくなってしまう物事に使いすぎることの無い様、本気で学んだり活動したい子供達や困っている人の為に助成金等を使ってほしい。

A. 父母会では、特に顕著な業績を納めた団体や個人に奨励金を支給したり、学外で発表を行うクラブ・サークル等課外活動団体に対し、助成を行っています。また、資格取得や教員・公務員試験に合格した学生に対しても奨学金を支給しております。

卒業パーテイーについては、父母会役員会で予算等の検討・見直しを行っており、これからもより良い学生生活が送れるよう検討してまいります。

北海道・宮城・茨城・富山・鳥取・大阪・長崎・沖縄会場のアンケートから

Q. 地区別父母懇談会が四年に一度ではなく、できれば毎年開催していただければと思います。

Q. 水戸でも毎年開催することを希望します。また、就職状況についてももう少し詳しく説明しても良いと思います。

A. 現在、茨城県水戸市・栃木県宇都宮市・群馬県高崎市の三会場につきましては、在学生数を考慮し、三年に一度は開催しております。居住地での開催がない年度があり、ご迷惑おかけしますが、九段キャンパスで行われる地区別父母懇談会へご出席いただくことも可能です。地区別父母懇談会のご案内が届きましたら、学生支援課にご相談いただければ可能な限り対応させていただきます。九段キャンパス以外で開催される懇談会について、就職に関する状況報告については、キャリアセンタートとも相談し充実させてきたいと考えています。

2017 創縁祭



11月4日(土)・5日(日)に、
二松學舎大学学園祭「創縁祭」
が開催されました。

父母会役員会では、無料休憩所（喫茶室）という形で毎年参加しています。伝統芸能、演劇、演武、発表、模擬店など学生たちのチームワークとアイデアの賜物をご覧ください。



創縁祭2017を終えて

学園祭実行委員会委員長

国文学科三年

川井達仁

今年も創縁祭が平成二十九年十一月四日(土)、五日(日)に開催されました。昨年来場者数が過去最多を記録することができましたが、今年も念願の二千人を超え過去の記録を大きく塗り変える結果となりました。このような結果を残すことができたのは本学父母会や松苓会、教職員の方々を始め、学内団体など多くの皆様にお力添えいただいたお陰でございます。この場をお借りして御礼申しあげます。誠にありがとうございます。

今年の創縁祭は「煌」というテーマを掲げました。これまでの二松學舎大学の歴史ある伝統に加えて新しい要素を吸収し、二松學舎大学全体がより輝き、その魅力が皆様の思い出に残るような創縁祭にしたいという願いを込めました。今年の創縁祭を通して皆様の中で、二松學舎大学の魅力が輝ける思い出となって伝わっていることを願います。次回の創縁祭でも関わった全ての方に二松學舎大学の魅力を伝えられるよう、実行委員会一同精一杯努めてまいります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。





今号から、キャリアセンターだよりの担当が変わりました。新担当の室井です。よろしくお願いいたします。

●地方就職支援、強化しています！

・栃木県との「Uターン就職促進に関する協定書」締結

地方創生事業の一環として地方の雇用強化策が進んでいます。そのひとつに、新卒学生の就職支援として、緊密な相互連携や協働の取組を行うために自治体と大学が協定を締結し、情報提供を推進しています。このたびは十一月十三日に栃木県と協定を締結しました。すでに数県でこのような協定を締結しており、今後も順次増やしていきます、学生の就職支援を強化してまいります。



栃木県との調印式 (左: 佐藤晋キャリアセンター長)

●就職対策、多数準備しています！

・三年次生の就職活動が本格化します！

日本経済団体連合会(経団連)が定める『採用選考に関する指針』で、企業の広報活動開始は、卒業年度に入る直前の三月一日から、選考活動開始は卒業年度の六月一日からとなっております。

しかし経団連所属企業以外はそれを順守する必要はなく、中堅・中小企業においては大企業と同時期に選考を行なうことは満足に採用ができません。



業界研究会



高野副学長も駆けつけた出陣式

アーリタリキセだ 49

ないため、三月の企業広報開始以降は、会社説明会と選考を並行して始める企業が多数あります。

三月から本格化する就職活動に対策すべく、キャリアセンターでは講座や研究会、セミナーやイベントなど多数開催します。

- ・就職基礎理解講座
- ・地方就職Uターンセミナー
- ・就活メイク講座

- ・就活マナー講座
- ・自己確認講座
- ・魅力発見！自己分析講座
- ・自己診断&伝える／伝わるプログラム
- ・自分軸発見講座
- ・女子力アップ講座
- ・男子力アップ講座
- ・SPI対策講座初級編
- ・SPI対策講座特訓編
- ・論文実践講座
- ・ES突破法講座

- ・ES実践講座
- ・履歴書書き方講座
- ・面接対策講座
- ・グループ・ディスカッション講座
- ・GDアドバンス講座
- ・採用担当による面接練習
- ・他大学学生との合同面接会
- ・業界研究会
- ・保安公務員ガイダンス



創縁会 (学内合同企業説明会)

- ・時事質問対策講座
 - ・求人票活用&労働法講座
 - ・就職力アップ講座
 - ・出陣式
 - ・創縁会(学内合同企業説明会)
- 二松學舎大学の就職支援は他大学と比べても充実しております。これらの支援をしっかり活用して、就職活動に万全の準備で臨んでいただければと存じます。

四年次生の未内定者には内定獲得イベント、一・二年生向けには大学生活を充実させるためのワークショップなど、年次に合わせた支援を行なっています。

また、いずれも個別の相談にも応じております。専門職のカウンセラーがアドバイスします。キャリアセンターの支援を活用し、各自の将来へ繋げていただきたいと思います。

中所ゼミナール

中所ゼミは四年生五人、三年生六人で先生も含めみんなで仲良く稽古をしています。ゼミは擦り足から始まり、仕舞、謡をやりまです。稽古は夏の浴衣会、秋の会、新年会での発表に向けて仕舞と謡を練習します。また、四年生は卒論が無いかわりに、二月に卒業研究発表があります。三年生も地謡として発表に参加するため、四年生のゼミに出席してみんなで稽古しています。

指導してくださっている中所先生は、能楽師として活躍している方で、たくさんのお弟子さんいます。普段からニコニコ笑顔の優しい方で、稽古の時は上手くできなくても、できるだけとても熱心に教えてくださいます。お弟子さん達や一橋大学の能のサークルの方々との交流の場を作ってくださいだったり、いろんな方に親しまれる人柄のいい先生です。

夏には、二泊三日でゼミ合宿を行いました。いつも長くても二、三時間くらいなので長時間の稽古は大変

でしたが、やる時はしつかりしむという切り換えをはっきりすること、とても充実したゼミ合宿になりました。

私は、少し興味があるくらいの気持ちでゼミを志望しましたが、中所ゼミを選んで良かったと思っています。他のゼミとは違う実技ばかりのゼミですが、毎週楽しく学んでいます。これからも、四年生の卒業発表や来年の私たちの学年の卒業発表に向け、中所先生の指導の元で、ゼミ生一同協力して頑張っていきたいと思



国文学科 三年 八重樫由実

思います。

江藤ゼミナール

「江藤ゼミナールは映像メディアのゼミです。映像論や文学理論の基本文献購読を毎週ゼミでは行っています。さらに夏合宿では、その春に話題になった映画作品やアニメーション作品について、各自レジュメを作って論じ合います。先生に言わせると、「分析的な思考力を身につけるためだ」ということです。でも、さっぱり身につかないというゼミのメンバーもいます。今年度は三年と四年

の合同合宿でした。ここでは、卒業研究の準備も、夏合宿は兼ねていて、それぞれ何を研究したいのかどのように卒業研究をまとめたのか、各自ゼミ生が口頭発表します。発表が終わったら、みんなで打ち上げを楽しみます。特に江藤ゼミでは自分の興味関心があるテーマに強いアプローチをかけられるため、極めて自由度が高いと言えます。また、他のメディアゼミとの連携を取り、合同の企画・イベントを行っています。同時にゼミ内での交流会を定期的に行

っています。こうした活動を通じて、私たちゼミ生は、まじめに勉強し、楽しく遊んでいます。さあ、ゼミの皆さん一言どうぞ。「いいやつが多い」「個人的な学生ばかり」「明るいよね」「LINEでゼミ」「やりたいことが見つかる」「ゼミが面白い」「嬉しい！楽しい！大好き！」こんな感じのゼミ生です。

国文学科 三年 黒川璃乃





国際交流年未懇親会



平成二十九年度の国際交流年未懇親会を十二月二日(土)にアルカディア市ヶ谷(鳳凰の間)において開催しました。外国人留学生、教職員、父母会役員の皆様、本学国際交流サポーター学生など例年の参加者に加え、今回は短期海外語学研修参加学生も参加し、合計七十名が集いました。



高野副学長の開会の挨拶に続き、南條父母会長の乾杯のご発声により会が始まりました。

懇親会では、あらかじめ録画された留学生の日本語によるメッセージや、この夏に実施したケンブリッジ大学における短期海外語学研修での参加学生のスピーチの様子などがモニターに写され、異国の地で活躍する学生や留学生の映像に会場からは自然と拍手が起きました。

続いて、国際交流サポーター学生が企画したビンゴ大会や交流スタンラリーが行われました。ビンゴ大会では、創立百四十周年記念グッズをはじめとした本学オリジナルグッズ等が賞品として用意され、この日一番の盛り上がりを見せていました。



留学生達には、日本人学生や教職員をはじめ、普段接することのない父母会役員の方々と交流する機会となり、和やかな雰囲気の中、参加者



留学生との国際交流の会



外国人留学生との交流や異文化理解等を目的とした「国際交流の会」を、創縁祭期間中の十一月四日(土)に九段四号館にて開催しました。

この会は、留学生の日本語ビデオメッセージ、留学生との交流、海外への留学相談等を盛り込んだもので、初めて実施するものです。

会場内の大型モニターで留学生が日本の文化等をテーマにした日本語によるビデオメッセージの映像が流れる中、会場内に待機する留学生

全員が親睦を深めていました。最後に塩田国際交流センター長から挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。

が、来場した本学学生や創縁祭参加者等に対応する形で交流が行われ、会場はまるで海外にいるような雰囲気となる場面もありました。

留学生による日本語メッセージでは、アイドルの話、花火大会に出かけた時のエピソード、好きな料理、留学中の研究テーマなど様々な日常の出来事についてのスピーチが流れました。日本語で一生懸命に話す留学生の様子は、飾らない自然な姿でとても好感が持てるもので、創縁祭に訪れた高校生や一般来場者が熱心にビデオメッセージを鑑賞している様子が印象的でした。



また、日頃国際交流活動に助成いただいている父母会様からは素敵な生花も頂戴して会場は華やかな雰囲気となり、イベント自体も盛況となりました。

交換留学生の声

平成二十九年年度交換留学生の劉 嘉鎰（リュウ カイツ）さんと張 蘭（チョウ ラン）さんに日本での大学生活について綴っていただきました。



台湾 中国文化大学

劉 嘉鎰

違う人生を作りたい

二〇一六年七月、私はワーキングホリデー制度を利用して、二ヶ月間日本に来ました。一年後の現在、私は二松學舎大学の交換留学生として、また大好きな日本に来ました。今回は、一年間の長期留学です。台湾で送る普通の大学生活から、最後の一年だけ、みんなとは少し違う特別な大学生活を送っているところです。台湾の中国文化大学に入学した時から、ずっと海外留学を目指して、日本語の勉強を頑張ってきましたが、ついに夢が実現しました。

一人で自分が全然知らない国へ行って、最初は怖くてたまらなかったです。しかし、だんだん慣れて来て、今は留学生活が好きになって、帰りたくなくなってきたほどです。この原稿を書いている時はちょうど留学三ヶ月目です。時間が全然足りないです。残っている時間をきちんと利用して、学校の授業をちゃんと理解したり、日本でできた友達たちといるところへ旅行したり、もっと日本のことを深く知りたい。

留学とは他の国に勉強するだけに限らず、その国で様々なところへ冒險して、やったことないことを試すことができます。私は「いつも好奇心を持たなければ」と思っています。今回の留学は、シェアハウスに住んでいます。日本人はもちろん、世界各地の国の人はここで共同生活をして、たくさんパーティーをしたり、自国の料理を作ってみんな一緒にシェアしたりします。違う国の人々と一緒に住んだり、カラオケへ行ったり、料理を作ったり、台湾で普通の大学生活を過ごしていたら、絶対に経験できないことばかりです。とても貴重です。日本の文化だけでなく、いろいろな国の文化に触れることができます。視野が広がり、考え方も変わります。他の国で生活のは誰でも頼らずに一人で解決しないとけません。最初は辛かったです。でも、達成するとこの苦労は価値があります。留学の期間のうち自分に磨いて、自分を成長させることができる良い機会だと思います。

学生時代のうちに、留学したほうがいいです。なぜなら、社会に出る前に、もう一度自分の人生を考え直すことができます。学生時代はいっぱい間違えをしても、すぐやり直せば大丈夫です。その失敗の経験のおかげで、人生がより良いものになるかもしれません。



中国 周口師範学院

張 蘭

日本で生活すること

私は小学生の時から、ずっと外国語に興味を持っていました。大学に入学して、日本語の勉強を始めました。毎日勉強しているうちに、いつか日本に行きたいという気持ちが強くなってきました。大学三年生のとき、二松學舎大学に留学するチャンスがあることを知り、日本に来ることになりました。日本に来て数カ月が経ちましたが、たまに「これは夢なのか」と思うことがあります。

日本に来たばかりの時、色々な困ったことがありました。例えば、みんな一緒に、家から学校までの電車に二回も乗ったのに、通学の路線を覚えることができなくて、その上で、携帯電話もまだ手続きする前だったので、泣きそうになりました。でも、困ったことばかりではありません。嬉しいこともたくさんあります。例えば、いま住んでいるシェアハウスには、様々な国の人がいます。ですから、異文化に触れること

ができるし、たくさん他の国のことを知ることができますし、自分の視野も広がるし、それは日本に来る前には想像していなかったことです。

二松學舎大学で日本語の授業を受けて、いろいろな勉強になっていきます。そして、大学の先生も学生もとても親切で、最初の緊張感もいつの間にか、すっかりなくなりました。特に、「日本語④（日本事情）」の先生はとても親切で、私たちに色々なことを話して、いつも気にかけてくれて、心が温かくなりました。それに、その先生は自分のクラスでの日本語教師になりたいという日本人の学生たちに連絡して、その学生たちと私たちは毎週日本語で話す機会を作ってくれています。とても感謝しています。

私は日本の建物と緑が大好きです。私は住んでいる町に一戸建ての住宅が多くて、それらの住宅の中に植物もたくさんあります。緑は心を落ち着かせてくれ、温かい感じがします。これからも、日本のことをもっと知りたいです。チャンスがあれば、もっと日本に長く生活したいと思います。

大学の講義を受講してみませんか

二松學舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様にご利用しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一々数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。

本学学生のご父母の皆様は、生涯教育の環境として一人でも多く大学の授業を受けて頂きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受講されることをお勧め致します。

内容は、次のとおりです。

卒業パーティーの開催について

【日時】
平成三十年三月十五日(木)
午後三時三十分～
五時三十分
(受付午後三時～)

- 【会場】
ホテルグランドパレス
二階「ダイヤモンドルーム」
〒100-0100七二
東京都千代田区飯田橋
一階一
本学九段キャンパスより
徒歩十二分

【次第】

- 一 開会
- 二 挨拶
- 三 乾杯
- 四 歓談・ゼミ写真撮影
- 五 閉会

○ 歓談の時間を利用してゼミ毎の集合写真撮影時間を設けています。時間に制約がありますので、あらかじめ撮影順番を決めております。ご協力ください。

○ 卒業生の皆さんには、「リボン」を必ず着用していただきます。「リボン」は卒業式当日配布します。

■公開科目

学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く授業科目を公開いたします。

■募集要項

平成三十年度の募集についてのお問い合わせは、二月になりましてからお願いします。

■科目等履修料

- 一科目 通年科目 三万円
- 半期科目 一万五千元

■問合せ先

二松學舎大学教務課
〇三(三二六二)七四〇六

編集後記

新年明けましておめでとうございます。保護者の皆様方におかれましては、お子様と共にこれからの抱負など語りあえる良い機会となったのではないのでしょうか。

昨年は、都市文化デザイン学科の新設、社会の注目を集めている漱石アンドロイドの様々な活動、そして二松學舎創立百四〇周年という記念すべき年であり、本学が更なる未来に向けて大きく歩み出した年でありました。

十一月三日、四日の二日間創縁祭が開催されました。

学生の皆さんの趣向を凝らした企画による数々の催し等々から近年にない多数の来校者をお迎えすることが出来たと伺っております。

父母会も十二階で喫茶室を開かせていただきました。父母の皆様やご家族の方々等々喫茶室も近年にない来室者を数え、盛況でありました。父母会と致しましてとても嬉しい限りであります。

創縁祭に御尽力いただいた学生、大学関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

本年も父母会は二松學舎大学と学生のために全力を尽くし参りますので、父母の皆様方のご支援、ご協力の程を何卒宜しく申し上げます。

末筆で申し訳ありませんが、本号編集にご協力いただきました皆様から感謝申し上げます。